

## 巻末-3

# タウンミーティングの結果

### ◇タウンミーティング開催概要

生物多様性地域戦略の策定に向けて、県内6箇所でタウンミーティングを実施し、のべ138名のみなさんにご参加いただきました。

タウンミーティングでは、それぞれの地域で抱える課題や活動事例、今後取り組んでいくべき内容などについて活発なご意見をいただきました。

下記にその概略を紹介します。

開催日	地区	テーマ	話題提供			参加者	開催場所
6月29日 (土)	物部川 流域	どう再生する？森と川と生きもの	「森と川と生きものを巡る現状と課題」 三嶺の森をまもるみんなの会 代表 依光 良三氏	「環境教育」 物部川 21 世紀の森と水の会 事務局次長 常石 勝氏	「浅水代かきの取組み」 JA 南国市 営農課長 内村 徳彦氏	26 名	香美市中央公民館
7月6日 (土)	西部 海岸地域	地域の産物で生活したい	「海から見た幡多の生物多様性」 黒潮生物研究財団 岩瀬 文人氏	「海を中心とした地域づくり」 宿毛市産業振興課 課長補佐 酒谷 幸夫氏	—	25 名	宿毛市立文教センター
7月7日 (日)	四万十川 流域	里山・川で人を育てる	「川の生物多様性を次世代に伝える」 環境の杜 こうち副理事長 石川 妙子氏	「四万十町の生物多様性について」 遠山を守る会 会長 池田 十三生氏	「自然環境教育の取組」 四万十高校 自然環境部のみなさん	30 名	四万十町農村環境改善センター
7月15日 (月)	中山間 地域	活かす農林業 守る伝統産業	「鳥獣対策の現状と課題」 四国自然史科学研究センター 葦田 恵美子氏	「中山間地から考える農業」 株式会社末広 取締役会長 山下 修氏	「林業の現状と課題」 株式会社とされい 副社長 半田 州甫氏	15 名	本山町プラチナセンター
7月20日 (土)	東部	森から海へ。地域資源の活用	「高知の自然を楽しむ」 香美市教育委員会 指導主事 野村 貴子氏	「奈半利川と共に」 天然資源活用委員会 事務局長 小笠原 良氏	—	16 名	田野町総合文化施設ふれあいセンター
7月21日 (日)	高知市	古地図と絵巻物から考える高知の未来	「生物多様性と身近な植物」 高知県立牧野植物園 研究員 前田 綾子氏	「村々から支えられた城下町」 土佐山内家宝物資料館 館長 渡部 淳氏	「村」の個性を記録する」 土佐山内家宝物資料館 企画員 筒井 聡史氏	26 名	高知市文化プラザかるぼーと (中央公民館)

## タウンミーティングで明らかとなった課題

### (1) 各会場に共通した課題

県内での生物多様性に関する認知度はとても低く、来場者の半数以上が「言葉は知っているが、その中身はよくわからない」という状況にある。また、「生物多様性」や「豊かさ」の解釈が個人によりかなりの差があることも明らかとなった。

タウンミーティングは6つの地域で行ったが、どの地域でも生物多様性の保全と利活用を考えるうえで一次産業の重要性が挙げられたほか、地域ごとに有害鳥獣や外来生物などの課題を共有した。また、生態系は山、川、里、海など地域により実情は異なり、地域色や多様性があることを改めて確認した。それには、気候や自然環境の違いだけでなく、その文化的・歴史的な背景や経済圏なども影響している。

教育の課題では、子供だけでなく、大人や高齢者までを含めて考えるべきであり、学校教育に限らず、地域での学びの機会も必要という意見が多く出された。また、幼少期の自然体験の重要性を多くの参加者が強調した。

その他、山間部での過疎化や一次産業の後継者不足、伝統的な知恵や文化の継承などが失われつつあることなど、人々の生活様式の変化に関する課題がどの地域でも共通の話題となった。



### (2) 地域別の課題

#### ① 物部川流域（香美市）

中心となる課題は、物部川に関連することであり、森林や農地に有害鳥獣と人の生活（社会活動）が関係している。現在行われているNGO活動の継続や展開と、活動の基礎となる多様な教育についての成果と課題が共有された。

具体的には物部川の濁水、シカの食害、林業の持続性、次世代への教育などが挙げられた。

#### ② 西部海岸地域（宿毛市）

中心となる課題は、海、森、川の連携と経済との関係性であった。

地域で核となる人物や団体の存在と、多様性と経済性のバランスについて意見が交わされた。

具体的なキーワードは宿毛湾などの再生（森と川のつながり）と人口減少、地域における人の連携などであった。

### ③ 四万十川流域（四万十町）

中心となる課題は四万十川で、支流による周辺の森林とのつながりが最も大きな課題となった。

具体的にはアユやアメゴの生息域や遺伝的課題、河川の構造上の課題（砂防堤など）、次世代への教育の課題などが挙げられた。

### ④ 中山間地域（本山町）

中心となる課題は、農林業の維持や利活用とそれを阻害する要因であった。

具体的には、農林業の生産と再生産に関する経済的な理由（例えば皆伐後の植林とシカ害など）、地域を維持する後継者の不足、県外からの移住者とのマッチング、地域全体を生物多様性の視点からどのようにデザインしなおすかという課題などが挙げられた。

### ⑤ 東部（田野町）

中心となる課題は、川を中心とした農林水産と社会構造（人と経済）であった。

具体的には、森（人工林含め）の持続と川の構造的な問題やその影響を受ける海の問題、後継者と教育に関する課題などが挙げられた。

### ⑥ 高知市

中心となる課題は、自然環境と生活の変化であり、都市部は地方に依存していることが確認された。

過去から学び未来を築くためには何が必要なのか、根本の原因をきちんと見極め、どのように対応するかを大事に考えるべきという意見などが出た。

具体的には、失われていくさまざまな財産（自然資源や知識・知恵）、市民が身近に接し、子供が遊べる自然環境が失われていくことなどが挙げられた。



タウンミーティングの様子

